



4348  
1  
特



前編上

夫戯文を根より變て種々々々乃物類をなすりける。其の内  
東三岳の山の神。乃ひ針洗濯の業をけり。中にも心とあり。乃  
うら。其他の劣愈も言ひせり。之をたにば少女子水披せる。一  
いども。春の目法徒然あるゆわいつまらざるを讀する。我友鶴屋  
南北の俳優のほり物に妙あり。法をせしむる。豊年の秋の小田  
のう成而巳とらまき。頗其名新米の燒米四方に額し。こた昔播磨の  
例の狂言は中一のいとま。瀬の流すきわの折に俳優の正本と首の種  
とあり。秋の稻を乃香藏の物語をそのせられ。さる後貢の米藏の  
秘をまじると。甘泉堂の亭主に。おの田ひく流行の。おん人うらま  
ののりとも。洗に様あり。あつて。世に弘むとも。小子此作馬の  
大序をのりとも。家の後米俵の小袋とくともあり。

文政十年戊子孟春新版

蓬萊山人述

君莫兼



昭和九年  
九月二日  
時末



初稿様



江戸 九龍亭 貞人房画

跡を程言と仕組と繪草紙を作ると其意同して其趣大に異あり  
先狂言作者自筆と標し少筆後の者命と作者のものと作がさし記と  
物の草紙を横書とい再び清書する是を正本との舞臺の子引せりぬ  
遺言いかにて正の謂かり原よりつらるるのこそ要とされあつても  
あつてもれうと者の類。常流にか。この假字つらひをさめ音訓の輕重を  
能優のによすを鹿漏は襖の音官先刻也知れ時代遠ひ人をも  
狂言繪話との傍道ありく。ま。示。景のあつた。狂言。屋。堂。堂。の。故。事。も。皆。を。く  
か。つ。あ。ら。言。う。け。魚。骨。の。諸。幕。七。通。校。正。も。も。を。か。ま。し。の。こ。悪。が。わ。れ。ぬ  
甚。前。に。九。例。が。り。み。せ。り。初。稿。を。書。入。と。

戊子初春

蓬萊山人題

序幕

慶應念佛寺の場



一裙模様三

君真兼



中  
左村  
内



峯の  
薬師  
靈験の圖

篠原一學

初打枝

花の名ハ畑屋

名ハ解ん  
葉は夕

文京

川菊妹  
左膳















Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, filling the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, filling the left page.



吾集卷



示持

おわりけ... 補遺の文字が縦書きで記述されている。内容は歴史的または地理的な記述と思われる。

おわりけ... 補遺の文字が縦書きで記述されている。内容は歴史的または地理的な記述と思われる。







